

~A Public Relations Magazine~

花だより

<10~12月号>

発行部署 広報部

秋風が気持ちのよい季節となりました。赤とんぼが群れ飛び、紅葉も色づき、秋の気配が少しずつ感じられます。さて、花だより10~12月号のテーマは知覚過敏です。これからの季節、口をあけただけで冷たい空気が歯にしみる…。このような経験がある方も多いのではないのでしょうか。そんな症状の原因やメカニズム、治療法についてお伝えします。新製品の紹介コーナーでは、義歯洗浄器の「洗力（せんりき）」をご紹介します。

●知覚過敏とは

知覚過敏とは、ハブラシの毛先が触れたり、冷たいもの、甘いもの、風に当たったときなどに歯に感じる一過性の痛みで、特に歯や歯の神経に炎症などの原因が無い場合に見られる症状を言います。

●原因

歯の表面を覆っているエナメル質は削っても痛みを感じません。象牙質はその内層にあります。また根部ではエナメル質が無く全層が象牙質でできています。象牙質は器具でこすったり、冷たいものや熱いものに触れると痛みを感じます。つまり象牙質は痛みを感じる部分です。そしてさまざまな理由で象牙質に刺激が加わることで痛みを感じるのです。



①歯ぐきの退縮

歯ぐきの位置は年齢や咬み合せの問題により少しずつ下がってきます。それに伴って歯の根っこが露出し、象牙質がむき出しの状態になります。このような象牙質表面では、ハブラシが触れたり、温度変化などの刺激で痛みを感じることがあります。

②歯の破折

打撲などにより歯が破折して、象牙質が露出すると、知覚過敏症状が出る場合があります。

③歯が擦り減ることによる象牙質露出

歯は使っていれば、少しずつですが擦り減っていきます。その結果、エナメル質が無くなって象牙質が露出することもあります。それにより知覚過敏の症状が出る場合もあります。



④歯が溶けることによる象牙質露出

炭酸飲料や酢の物を頻繁かつ長時間摂取するような習慣があると、エナメル質は簡単に溶けてしまい象牙質が露出します。

●治療法

①再石灰化を促す

知覚過敏は、軽度なものであれば期間が経過すると自然に消失することもよくあります。これは象牙質の露出部において、唾液や歯磨き剤からの再石灰化によるものと考えられています。

②歯の神経の興奮を抑える

知覚過敏は歯の神経が刺激を受けて、「痛い」という信号を中枢に送ることで痛みを感じます。この神経からの信号を送らせないようにするつまり神経を興奮させないようにする治療法もあります。これは神経の周囲をカリウムイオンが多く取り巻いていると、神経の細胞が興奮しにくくなる効果を利用したものです。実際には、歯磨き剤に硝酸カリウムという成分を含ませることで、症状の改善効果があることが確かめられています。

③象牙質の部分露出の内部の空隙を封鎖する

露出した部分を歯と同じような成分の結晶やその他さまざまな物質で覆うことで症状を落ち着かせることもできます。



④象牙質の露出部分を被覆する

知覚過敏のある象牙質表面を被覆することで症状をなくすこともできます。



●予防法

知覚過敏の確実な予防法はありません。むし歯や歯周病を予防することを心がけることが知覚過敏の予防にも繋がります。また、自分ではむし歯なのか、知覚過敏なのかは判断が難しいものです。気になる症状があったら、歯科医院を受診することをお勧めします。

New アイテムのご紹介

義歯に付着した細菌は口内炎や口臭、さらには生命を左右する誤嚥性肺炎の原因になる危険性も有しています。それだけにしっかり洗浄することはとても重要なこととなります。

この洗浄器は簡単な操作方法で、義歯に付着した汚れを落としていきます。ブラシが届きにくいところまで超音波の力で洗浄することができます。洗浄時間はわずか5分で完了です。

フタも付いているので液体の飛散も心配ありません！

ご興味のある方は一度、スタッフまでお尋ねください。



販売価格¥14,900

花ことば

山茶花

困難に打ち勝つ

ひたむきさ

寒さが強まる過酷な季節にも負けずに花を咲かせる姿に由来しています。

